

「羽毛を求めて片道16時間の旅」

夏のポーランド訪問記



文：植村浩太郎



平地が多く、水と緑に恵まれたポーランドは世界トップの高級羽毛産地。1着15〜30万円もするような、ハイブランドのダウンジャケットにポーランドのホワイトグースダウンが使われていることから、その品質の高さは何える。

だが一口にポーランドのグースダウンと言ってもその品質はピンキリ。生意気を言うようだが、私たちが求めるのはこれらのダウンジャケットに使われている羽毛よりもさらに上の上のレベル。少量でも驚くほど暖かく、30年以上の使用にも耐え、ニオイやホコリも少ない、最高峰の羽毛が欲しいのだ。そこでそんな羽毛を求めて今年も僕はポーランドに行ってきたのだ。

野生に近い環境で育てる

今回は二つのマザーグース農場にお邪魔し、色々な話を伺わせて頂いたが「ストレスのない環境が、健康的なグースを育てるんだ。健康なグースほどお肉は美味しいし、羽毛も良いものが取れるんだよ。」と彼らは口を揃える。

国を挙げてグースの飼育に力を入れているポーランドでは、原則としてグースは24時間放し飼いと決まっているのだ。また飼料についてもケミカルフリーでオーガニックな素材を使うように指定されていて、さらにマザーグースについては植物性のタンパク質が豊富に取れるような餌作りがなされているそうだ。そりゃポーランドの羽毛原料が他国に比べて高くなるのも当然だと納得。

ブランド力があるゆえに 詐称の対象になりやすい

おかしな話だが、実はポーランドの羽毛メーカーから直接ポーランドの羽毛を仕入れるよりも、台湾や中国の羽毛メーカーからポーランドの羽毛を仕入れる方が安いのだ。



マザーとレギュラー

グースはレギュラーグースとマザーグースに分けられる。レギュラーグースとは食用に飼育されている鳥のことで、マザーグースはそのレギュラーグースを産むために飼育されている母鳥のことを指す。(マザーグースを人が食べることはない)

ポーランドでは通常レギュラーグースは生後16〜18週間(約3〜4ヶ月)で屠畜されて食肉となり、スローターハウスと呼ばれる屠畜場で屠畜と同時に羽毛が採取される。(羽毛を採取できるのはその1回のみ)

一方でマザーグースの場合は「最長で5年まで飼育され、年4回羽毛が採取される」という点でレギュラーグースとは大きく異なる。(レギュラーグースの方が飼育数が圧倒的に多いので、羽毛の量はマザーグースの方が少ない)

当然だが飼育期間が長い鳥ほど身体が成長し、羽毛もそれに伴って大きく成熟するから、基本的にはマザーグースの方が質の良い羽毛が採取できる。巷でマザーグースの羽毛布団が良いと言われているのはそういう理由だ。

というのもポーランドから羽毛を仕入れたアジアのメーカーは、ポーランドの羽毛に中国や東南アジアの安い羽毛を混ぜ、量を増やすことがあるからだ。ポーランドを出た時には1000kgだった羽毛が、日本に入ってから頃にはいつの間にか倍の2000kgになっている。笑えない話である。ただこれはまだかわいい方で、中には100%違う国の羽毛をポーランドと偽っている業者もいれば、近年は中古羽毛の混入も増えているというのだから救いようがない。快眠屋が直輸入にこだわっているのはこういうリスクを避けるためだ。

この問題にはポーランドの農家や羽毛メーカーも頭を悩ませている。せっかく質のいい羽毛を生産しても、安価な偽ポーランド産にシェアを取られてしまう上に、偽物のポーランド産の羽毛を買ってしまった人からは「ポーランドって言っても大したことないね」という誤解も招いてしまう。悪貨は良貨を駆逐すると言われるが、そうならないためにも、グースの飼育に人生を賭けている農家の方や、その羽毛原料を最高の状態に精製しようと企業努力を続けている羽毛メーカーに報いるためにも、我々はまっとうなモノをまっとうな方法で今後も提供し続けねばならない、そんな想いを強くした5日間だった。